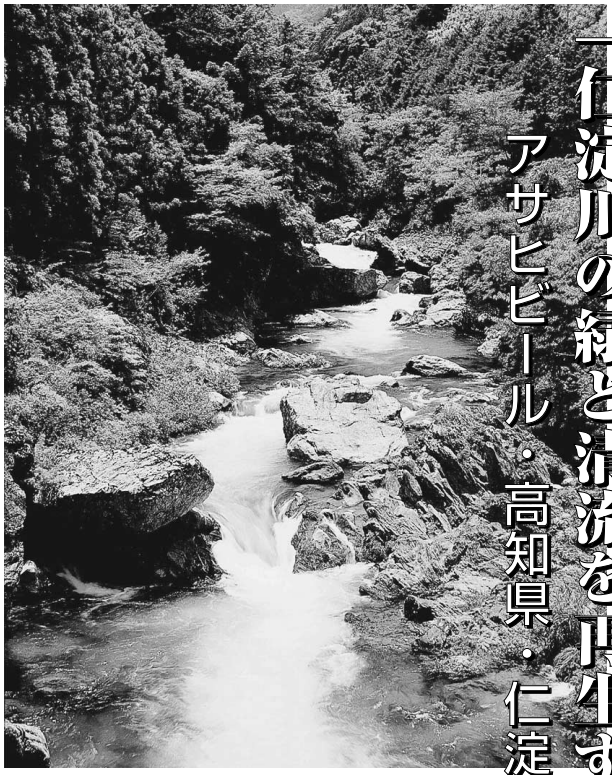
「仁淀川の緑と清流を再生する会」を支援

アサヒビール・高知県・仁淀川町が協定締結



ビール等売り上げの一部が「再生する会」へ

アサヒビール（株）は、愛媛県西条市の四国工場操業十周年を記念し、ビールなどの売り上げの一部を四国四県の環境保全活動団体に寄付する「四国の水・森に感謝」キャンペーンを実施します。本県からは本町の「仁淀川の緑と清流を再生する会」（奥田英雄会長）が選定され、仁淀川の水質保全活動などに対し寄付されることになりました。

今回「再生する会」の活動をアサヒビール（株）とともに高知県、仁淀川町がサポートすることになり、三月四日、県庁でアサヒビールの古田土俊男四国地区本部長、尾﨑正直県知事、藤﨑富士登町長、奥田会長が出席し、四者間で協定が締結されました。

キャンペーンは、三月十一日から六月末までの間、ビールや発泡酒一本につき一円を販売本数に応じて団体に寄付するもので、平成二十年から三年間行われます。また各団体が行う環境保全活動に、アサヒビールグループの社員が参加する予定にもなっています。

奥田会長は「大変ありがたいお話をいただき感謝しています。まずは五月の仁淀川支流の清掃活動からスタートしたい」と抱負を述べていました。

協定書を手に左から藤﨑町長、古田土四国地区本部長、奥田会長、尾﨑知事

4団体で地域おこしフォーラム

町で地域おこしに取り組んでいる団体が交流し、情報交換を行おうと、「仁淀川の緑と清流を再生する会」（奥田英雄会長）の呼びかけで３月１６日、池川コミュニティセンターにおいて地域おこしフォーラムが開催されました。

フォーラムには、「再生する会」の他「山村自然楽校しもなの郷運営委員会」「池川応援団」「遊遊会」の４団体が参加、武内孝幸県地域づくり支援課長や藤﨑富士登町長など行政関係者を含めた総勢４６人が意見交換を行いました。

また茶農家を目指し町に定住した栗田桂子さんの講演も行われ、栗田さんは、定住するに至った経緯や仁淀川町に対する思いなどを語ってくれました。

座談会では、それぞれの団体が日ごろの活動を紹介した後、地域おこしについての提言や意見交換が行われ、「道路沿いの植林を伐ると明るくて安全になる」「行事にもっと町内の若い人の参加を促そう」などの意見が出されました。

活発な意見交換が行われたフォーラム

長者に地球の裏側からお客さま

南米、アンデス地域のボリビア・ペルー・エクアドルの州知事や大学教授など行政担当職員十四人が、三月十五日から三日間、研修員として本町を訪れました。

三月十六日には長者出張所で「アンデスお国自慢サミット」と題した交流会が開かれ、大勢の地域の方が参加しました。和やかな雰囲気のなか他国の文化を肌で感じることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

交流会では、まず三カ国の研修員が一人一人自己紹介。「ここはとても清潔で、美しい場所。道路や集落が整備されていてお手本になる。住民の皆さんの顔が私たちと似ている」と長者の印象について話す研修員もいました。

続いてそれぞれの国の気候や生活、文化などを紹介した後、長者小学校児童が「南中ソーラン」を、女性グループが「豊年踊り」を、研修員がそれぞれの国の民俗舞踊などを披露しました。ボリビアで若者に人気があるという踊りでは、軽快な音楽に合わせて会場からはいつの間にか手拍子も。また合間には踊りを教え合う場面も見られ、あっという間に和やかな雰囲気となりました。

ボリビアの踊りを教えてもらう小学生たち

引き続き、小学生がおじゃみ、こま回し、けん玉、一輪車を披露した後、研修員もこれらの遊びに挑戦しました。

最後の質問の時間では、小学生や地域の方々から、犬や猫の鳴き声は違うのか、どんな料理があるのか、長者は高齢者の世帯が多いがほかの国はどうか、などと質問が相次ぎました。

これに対し研修員は、動物の鳴き声を面白く聞かせてくれたり、「料理は辛い物が多い」などと答えたり、世帯の状況では「自分の国では仕事がないのでお父さん、お母さんは外国へ仕事に行く。子どもは家に残りおじいさん、おばあさんと暮らす家が多い」（エクアドル）、「四人兄弟の家が多い。一人っ子の家はほとんどない」（ボリビア）、「高齢者が大勢いたらいいと思うが、いろいろな理由でお年寄りが長生きできない」（ペルー）と回答し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

質問の時間を最後に、二時間半の交流会はあっという間に終了し、参加者たちは名残惜しそうに会場を後にしました。

おじゃみはこうやるんだよ～

各国の民俗衣装や音楽CDなどが長者地域や長者小へ、小学生から研修員へは折り紙などがプレゼントされました

大学生も長者で研修会　棚田で農作業体験

棚田での作業風景

3月15日には、高知大学、高知工科大学、愛媛大学の学生ら約20人が合同研修会として長者を訪れました。

地域の方々と一緒に、チューリップや水仙、パンジーなどが植えられている棚田の草引きやカヤの根を取り除く作業を行いました。

学生は「地域の方々と触れ合えるのも楽しいです」と話していました。

タイムカプセル in 吾川じゃ

たくさんの思い出と夢を詰めて

二月二十九日「タイムカプセルin吾川じゃ」が吾川中学校グラウンドで行われました。「吾川笑いの里懇談会　吾川じゃ会」（大原哲夫代表）が、小学校を卒業する六年生が大人になったときに、自分の住んでいた吾川を振り返ってほしい、また仲間意識を持ってほしいと始めたもので、今年で十三回目になります。

大崎小十人、名野川小六人の六年生は、大人になった自分への手紙や思い出の写真、寄せ書きなどをタイムカプセルに収め、グラウンドの隅に埋めました。

タイムカプセルは、八年後の成人式で開封する予定で、児童は「今はやっていることや友達との思い出などを書いて埋めました。八年後が楽しみです」と話していました。

一人一人が思い出の写真や手紙を封入

校長先生や担任の先生と記念撮影

仁淀中学校選手が大活躍！

県中学柔道新人戦大会

２月３日、県立武道館で開催された第37回高知県中学柔道新人戦大会個人戦に仁淀中から３選手が出場。好成績を収めました。

女子	57㌔級	優　勝	大窪　彩加（１年）
男子	50㌔級	第３位	古味　徹也（２年）
男子	55㌔級	ベスト８	古味　　良（２年）

左から古味良君、大窪彩加さん、古味徹也君

6チームが熱戦を繰り広げた

桜花杯ソフトボール大会

３月２日、第15回桜花杯ソフトボール大会が町外から招待した４チームと吾川中、仁淀中の合計６チームで、吾川中グラウンドを主会場に開催されました。

当日は暖かく絶好の天候となり、予選リーグ戦から熱戦が繰り広げられ、決勝には初出場の嶺北中学校と、２度目の優勝を目指す大正中学校が勝ち上がり、３－２で嶺北中学校が初優勝を果たしました。また３位決定戦は、吾川中学校と高岡中学校で行われ、延長８回タイブレーカーの末８－７で高岡中学校が勝利しました。

優　勝　嶺北中学校
準優勝　大正中学校
第３位　高岡中学校

)) 気持ちよく道路を利用してもらおう！ ((

町道大崎鹿森（ししもり）線で清掃活動

３月２日、町青少年健全育成協議会吾川支部と町教育委員会の共催で、町道大崎鹿森線の清掃活動が行われました。

この活動は、桜の花見シーズンを前に花見客や地元の人たちに気持ちよく道路を利用してもらおうと、平成５年ごろから続けられている地域と子どもたちの恒例行事です。

この日も大崎ジュニア、中津ジュニアのソフトボールチームのメンバーと指導者、地域の方々など約50人が参加。基幹集落センター前に集合し、黒川武志町青少年健全育成協議会長があいさつ、続いて町職員がごみの分別方法などについて説明をし、参加者はごみ袋を片手に約３㌔先のひょうたん桜を目指して出発しました。

肌寒い天候の中、道路脇に落ちているごみを拾ったり、側溝にたまっている落ち葉などもほうきや熊手を使って丁寧にかき集めました。

約２時間かけて終点の桜地区集会所前に到着。集めたごみを分別し作業を終了しました。

お昼には、商工会婦人部の皆さんが作ってくれたカレーライスが振る舞われ、一仕事終えた参加者たちはおいしそうに食べていました。

50人が参加した清掃活動

〈地域教育便り〉

子どもたちの成長を願って

地域教育推進協議会が「食」の重要性を学ぶ

三月六日、第三回仁淀川町地域教育推進協議会を開催しました。

十九年度は、町内の学校の子どもたちがすくすくと心豊かに伸びていくことを願い、各学校でどのような計画がなされ、どのようなことが大切にされ、その中で子どもたちは何を学び取っているのだろうかということを協議会で検討し合い、共に応援していこうと取り組んできました。

この日、午前中は町学校給食共同調理場で見学と試食を行い、夕方からの会では、掛水栄養士さんに「町内の子どもたちの給食状況とその影響について」と題して講話をしてもらいました。

調理場では、六百食を調理員七人で作っています。役割に応じて組み立てた工程順に、衛生面にも十分配慮しつつテキパキと作業を行い、予定通りに作り上げていました。小学生も調理場を見学する機会があり、食材の多さやお鍋の大きさに驚いているとのことです。

栄養士さんの講話では、食事の重要性やそれに伴う心身の健康、感謝の心や社会性（マナー等）の育ちにも触れ、広い視野での話がありました。安心安全な給食を作るためには、栄養バランスを考え、地場産物や郷土食を活用した献立の工夫もしているとのことです。また町内の給食残飯量は、十九年度四月から一月までの調べでは、仁淀地区の子どもたちが毎回少なく、よく食べているようです。毎日、健康で楽しく過ごせるように、好き嫌いをせずに残さず食べてほしいものです。

この一年間、町内の子どもたちが、それぞれの環境で地域の方々に見守られながら、元気いっぱいに過ごしていることを地域教育推進協議会を通して知ることができました。この会で考察したことが新年度に生かされていくように、地域の方々にもさらにご協力をお願いいたします。

共同調理場を見学